



青葉の笛だより

第38号

令和3年10月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

一昨年秋までは、毎年五月の連休明けと十月の早い時期に四国遍路を行い、大体二年で一回りしていたのですが、このコロナ禍により、讃岐の一部の札所と高野山へのお参りを残したままになっています。しかし、ワクチン接種や葉の開菜などでコロナ騒ぎも落ち着き、来年春にはお参り出来るだろうと思っています。

さて、私たちのようなバスで巡るお遍路さんにはあまりおられません。昔ながらの歩くお遍路さんは、ほとんどの方が菅笠を被っておられます。お札所で読経する時、帽子や被り物は取らなければなりません。以下に述べる字句の書かれた笠は取らなくても良いとされています。

その笠に書かれている字句ですが、大体中心にあたるような位置に、お大師様を表す「ユ」と書かれた梵字があり、その中心から笠の縁に向かって、「迷故三界城」「悟故十方空」「本来無東西」「何処有南北」の偈文と、「同行二人」が書かれています。

「迷故三界城」は、迷うがゆえに三界は城なりと読み、心に迷いがあるから、生きていくことが城壁に閉じ込められているようなもので、ど

こに行っても壁にぶつかるという意味。「悟故十方空」は、悟るがゆえに十方は空なりと読み、悟ると自分の心を含めた、この世の全てが無限に広がっており、全てが真理であることがわかるという意味。「本来無東西」と「何処有南北」は、

本来は東西なし、いずこにか南北あらんと読み、前の二句を理解すれば、東西というものもない、どこに南北があるのか、と言っているのです。

宇宙からの中継を見ると、宇宙ステーションの中は別として、宇宙では、東西南北や上下といったものは全く意味を成しません。宇宙まで行かなくても、この地球でも北極点に行けば南以外の方角はないし、南極点に行けば反対に北以外の方角はありません。極端な話ですが、磁石を持って東へ東へ進むと西に着いてしまいます。東西南北などは生活を便利にするためのものであって、真理ではありません。向きにこだわって置いたがために、部屋の移動等に邪魔になり、落ち着きのない状態になっているお仏壇を見ることがあります。あまりにもこだわりの大きいと、生きにくい世の中になってしまいます。

物事を偏見や先入観によって判断せず、ありのままに観ていくことが、心が自由になるといふことなのです。

大本山須磨寺 貫主

合掌

小池 弘三

疫病で活動もままならない中であっても、金剛流須磨寺御詠歌教室は、数名の新しい入会者に、明るい未来を見通せる気がして、この九月、具体的に新たな一歩を踏み出しました。今まで、教室を取りまとめ、実務を担ってきた数名のお世話係が自らの意思でその役目を退き、新しい若い世代に襷を渡しました。その際、須磨寺御詠歌教室が、開かれた教室として、日本の文化である御詠歌を明るく伝えていけるように、決め事を成文化して次の世代に引き継ぎました。それは、殻に閉じこもらず、思い込みで囚われないう、論理性と科学性に裏打ちされた柔軟な思考に基づいた組織運営が出来ることを主眼として、常に内省をし、その世代で、その時々の新しい時代に合った教室のあり方を求め続けて、この先も生徒たちが自律的に道を切り拓いていけるようにとの思いからです。

今までも、教室の明朗さを保つために、古くからいる生徒と新しく入った生徒の間に垣根を作らないよう様々な配慮をしてきました。これからは、さらに、①先生としてご指導くださるのは、現在そうであるように、正式に須磨寺御詠歌教室としてお願いをした



有資格者の方のみとし、生徒たちはどんなに古くからいても生徒に徹して、②御詠歌をお唱えする上でのご指導やご指示は先生がおっしゃる事に従い、③御詠歌教室としての意思決定は執行部のみが行い、④対外的なやり取りは、須磨寺寺務長小池陽人がその任を負うという四つの原則を定めました。

新しい施策としてすぐにでも実行しようと考えているのは、須磨寺境内諸堂の前で定期的に御詠歌をお唱えする機会を設けること、先生のご指導のもと、論理的で科学的な復習方法と手段を工夫し、比較的短期間で新入生の理解を一定の程度に引き上げることです。

わたくしたちは、いつでも広く仲間を求めており、互いに尊重し、許容して、助け合う教室を目指しています。いつの時代になっても、集う人々がこだわりなく、仲間と共に御詠歌を楽しみ、お唱えできる場として、須磨寺御詠歌教室が末永く続いていくことを願うのみです。

最後に、授業は須磨寺客殿にて、毎週木曜午後一時から三時までです。月謝は三千元です。まずは見学にいらっしやいませんか。連絡先電話番号は〇九〇・一一九四・一五二一（山口）です

金剛流須磨寺御詠歌教室

自律性と永続性の実現へ向けて

疫病で活動もままならない中であっても、金剛流須磨寺御詠歌教室は、数名の新しい入会者に、明るい未来を見通せる気がして、この九月、具体的に新たな一歩を踏み出しました。今まで、教室を取りまとめ、実務を担ってきた数名のお世話係が自らの意思でその役目を退き、新しい若い世代に襷を渡しました。その際、須磨寺御詠歌教室が、開かれた教室として、日本の文化である御詠歌を明るく伝えていけるように、決め事を成文化して次の世代に引き継ぎました。それは、殻に閉じこもらず、思い込みで囚われないう、論理性と科学性に裏打ちされた柔軟な思考に基づいた組織運営が出来ることを主眼として、常に内省をし、その世代で、その時々の新しい時代に合った教室のあり方を求め続けて、この先も生徒たちが自律的に道を切り拓いていけるようにとの思いからです。

須磨寺正覚院 音楽教室

(スマイル・ミュージック・スクール)



ピアノのレッスンを始めてみませんか？

◆指導者

三浦 敦子

大阪音楽大学作曲学科楽理専攻卒
関西ジャズ協会会員



◆場 所

須磨寺正覚院 阿字観道場一階

◆日 時

子供の部（中学生まで）火・水・木・土

大人の部（高校生以上）月・金・土・日

◆お月謝

子供の部 年四十回、三十分レッスン 五千元～

大人の部 月一回、四十五分レッスン 四千元～

◆連絡先

TEL (078) 731-6088

◆ホームページ

<https://atsukey.jimdo.com/>

お問い合わせはこちらからメールも可能です。

ピアノ演奏の基礎的なテクニック・読譜力から表現力まで、楽しみながら無理なく身につくように、レベルに合わせた個人レッスンをしています。

初心者の方から、趣味の幅を広げたい方、プロ志向の方、資格取得を目指す方まで、それぞれの目的を伺ったうえでカリキュラムを考えます。

レパートリーはクラシック、ポピュラー、ジャズ、の他にも日本の曲などからお好きな曲を選んでいただけます。

レッスンは、グランドピアノ、アップライトピアノなどのアコースティック・ピアノだけでなく、電子ピアノやキーボードでもレッスンを行っています。

アンサンブル体験が出来るように、ミュージックデータやドラムマシンなどを使用してレッスンしています。

また定期的にコンサートやイベントを開催しています。

ジャズピアノコースやポピュラーピアノコースでは、ベース、ドラムといった他の楽器、時にはヴォーカルやサックスなどもセッション（演奏）に加わり、素晴らしい音楽経験を積んでゆけます。

四歳児から八十代の方まで、現在三十名近くの方がレッスンされています。

一度、お気軽にレッスン室にお越しくださいね。お待ちしております。

蓮生院十月から十二月までの行事予定

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできる写経・瞑想ですので、経験のない方でもお気軽にご参加ください。日常の疲れた心を癒しにお越しください。（写経のみ、瞑想のみの参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください）

日 時：十月二十四日（日）

十一月二十七日（土）

十二月十一日（土）・二十六日（日）

写経会十四時～十五時半

瞑想会十六時～十七時（受付は三十分前から）

*十二月二十六日（日）は瞑想体験会のみ、

十八時～十九時。

ロウソクの明かりのみで行います。

場 所：蓮生院本堂

参加費：写経五百円・瞑想会千円

事前申し込み制です。

数日前から発熱、咳、下痢、頭痛、息苦しさなどありましたら、参加はご遠慮下さい。

マスク着用をお願いします。

当日お昼までに蓮生院の事務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。

諸事情により取りやめになることがあります。

蓮生院電話番号 〇七八ー七三一―二三一一

一絃須磨琴保存会

昭和40年に須磨寺に発足。昭和51年には兵庫県指定無形文化財の指定を受けました。

古典曲の保存伝承につとめるかたわら、現代感覚を盛り込んだ新しい一絃琴

音楽の確立をめざしています。



平安時代初期より須磨に伝わる一絃須磨琴。一枚の板に一本の絃を張った素朴なお琴ですが、その清雅で幽玄な音色は私たちの心に深く響きます。どうぞ、お気軽にお問い合わせください。

入会、体験のお問い合わせ先 078-731-0416 須磨琴係まで

一絃須磨琴保存会 YouTube 動画配信しております！



須磨の火祭り



来る十一月二十三日(祝・火曜日)午前十一時より、須磨寺秋季大祭「須磨の火祭り」(柴燈大護摩供、火生三昧火渡り修行)を厳修致します。柴燈護摩とは、屋外で焚く大護摩のことです。もともとは山伏が山の中で行っていた修験道の修行であり、不動明王の智慧の火によって皆様の諸願成就を祈ります。護摩壇が点火されると、境内は煙で包み込まれます。この煙にあたれば、無病息災のご利益を得られると伝えられています。法要の最後には、火渡り修行が行われます。火渡りは火の上を歩く荒行です。浄火によって煩惱を焼き尽くし、古い身体と別れ新たに生まれ変わるといふ意味があります。この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年をお迎え下さい。

※マスク着用にて、ご参拝ください。

記

- 一、日時 十一月二十三日(火曜日・祝日)午前十一時開白
- 一、会場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて
- 一、ご祈禱 特別祈禱札 一万円・三万円・五万円
添護摩木 千円
- 一、火渡り 厄年特別火渡り 五千円
一般火渡り 二千円(先着百五十名)

※火渡り申込の方は当日お札、行者手ぬぐいをお渡します。
※火渡り修行は荒行です。多少のやけどもあり得ますので、申込書の注意をよくお読みのうえお申し込みください。

一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込みください。

特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをされることをおすすめします。

令和四年 厄年表

平成 十六年生(女性) 厄年	平成 十 年生(男性) 小厄
平成 三 年生(女性) 前厄	昭和五十七年生(男性) 前厄
平成 二 年生(女性) 本厄	昭和五十六年生(男性) 本厄
平成 元 年生(女性) 後厄	昭和五十五年生(男性) 後厄
昭和六十一年生(女性) 厄年	昭和三十七年生(男性) 厄年
昭和六十七年生(女性) 厄年	